

島根県松江市朝酌町

廻原 1 号墳発掘調査報告書

—出雲における古墳時代終末期首長墓の調査—

2016

島根大学法文学部考古学研究室
廻原 1 号墳発掘調査団

序 言

島根大学考古学研究室は1981年4月に設置され、現在は法文学部社会文化学科に属している。この間、多くの専攻卒業生を送り出し、山陰地域を中心に調査・研究活動を行ってきた。現在は、大橋泰夫、岩本崇、平郡達哉、及川穰の教員4名体制で研究活動を進めている。

廻原^{めぐりはら}1号墳は出雲でもっとも新しい古墳の一つとして知られ、古代出雲の形成を考える上で重要な首長墓である。調査は夏期や春期休暇などを利用し、2010年3月の墳丘測量からはじまり、2015年4月まで足かけ6年をかけた。

調査は大学の研究プロジェクトの一つとして、『出雲国風土記』に記述される地域的なまとまりが成立する過程を、考古学的に実証的に把握するために行った。墳丘の形態・規模や時期に加えて、出雲地域の首長墓が独特な在地性を強く持ちつづけた点が明らかとなるなどの成果を得た。

現地の調査から報告書作成にいたるまで、考古学実習として研究室の学生が主体となり、大手前大学の院生も参加した。廻原1号墳の調査は学術的研究としてだけでなく、学生教育の場としても教育的効果は高いものがあった。

調査にあたっては、各方面のお世話になった。多くの方々に現場に来ていただきご協力やご教示をいただいた。とくに土地所有者の吉岡智幸様と吉岡トミ子様をはじめとして、さまざまな便宜を松江市立朝酌小学校、朝酌自治会のみなさま、松江市教育委員会にはかっていたいただいた。厚く御礼を申し上げる。

本報告が古代出雲を解明する上で広く学術的に活用されることを期待する。

平成28(2016)年3月

島根大学法文学部考古学研究室
教授 大橋 泰夫

例 言

1. 本書は島根県松江市朝酌町 1166 に所在する廻原^{めぐりはら}1号墳の発掘調査報告書である。調査は島根大学法文学部考古学研究室が主体となり、廻原1号墳発掘調査団を組織して実施した学術調査である。
2. 発掘調査は、大橋泰夫（島根大学法文学部教授）、岩本崇（島根大学法文学部准教授）、平郡達哉（島根大学法文学部准教授）、及川穰（島根大学法文学部准教授）が担当し、会下和宏（島根大学ミュージアム准教授）が支援した。発掘調査は5ヶ年4次にわたり、第2次調査を2011年2月19日～7月29日、第3次調査を2012年9月3日～28日、第4次調査を2013年9月4日～10月14日、第5次調査を2014年9月6日～30日、2015年3月9日～4月19日に実施した。これらに先立つ2010年3月7日～10日、2010年9月19日～21日に実施した測量調査を第1次調査とする。
3. 調査は、2009～2014年度島根大学法文学部山陰研究プロジェクト、2010・2011年度島根大学萌芽研究プロジェクト『「出雲国」成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究』（研究代表者 大橋泰夫）、2012～2015年度島根大学法文学部教育経費・学部長裁量経費による「考古学実習」のフィールドワークの一環として実施した。本書は、上記事業の成果報告書であるとともに、平成27年度島根大学戦略的経費による古代出雲プロジェクトセンター（センター長 大橋泰夫）『歴史資料による地域研究と情報発信～古代出雲像の再構築～』の研究成果報告書である。
4. 本書の執筆は調査参加者があたり、分担を目次と分担部分の末尾に記した。第4章については、加藤一郎氏（宮内庁書陵部）、岡本篤志氏（大手前大学史学研究所研究員）、亀井淳志氏（島根大学総合理工学部准教授）より玉稿をいただいた。記して謝意を表す。編集は、岩本崇（島根大学法文学部准教授）と磯貝龍志（島根大学大学院生）が担当し、調査参加者がこれを補佐した。
5. 本書で表示する方位は、平成14年に国土交通省によって公示された国土座標値（世界測地系・平面直角座標第Ⅲ系）にもとづくものであり、記載する座標数値についてもこれにしたがう。ただし、図版に示す撮影方向はこの限りでない。標高は、東京湾平均海面（T.P.）の水準値による。
6. 本書で用いる土層および土器胎土の色調については、小山正忠・竹原秀雄（編）『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局 監修／（財）日本色彩研究所 色票監修）第24版（2002年度版）にしたがった。また、土質については、大久保雅弘・藤田至則（編）『新版 地学ハンドブック』築地書館（1984年）のp.63に所収される「碎屑性堆積物の粒度区分」に準拠した。
7. 出土遺物には品目ごとに通し番号を付すことを原則とし、番号は記述・図表・図版で対応する。
8. 本書に掲載した発掘調査で検出した遺構ならびに遺物の写真は、岩本が撮影した。
9. 発掘調査にかかわる図面・写真・出土遺物は、島根大学法文学部考古学研究室で保管している。
10. 引用文献は各章の末尾に一括して付した。ただし、第4章の引用文献は各節の末尾に付した。なお、第4章の各節は記名論文であるため、専門とする学問分野の違い、執筆者の意図を尊重して表記方法など細部の統一はあえておこなわず、最低限の体裁を整えるにとどめた。ご海容いただきたい。
11. 現地調査ならびに報告書作成の過程では、以下の各位と諸機関よりご協力を賜った。なかでも土地所有者である吉岡智幸氏と吉岡トミ子氏をはじめとする地元住民のみならず、朝酌自治会、松江市立朝酌小学校から格別のご配慮を頂戴した。記して感謝申し上げる。

岩本真実 魚津知克 内田律雄 大谷晃二 太田宏明 角田徳幸 河内一浩 澤田秀実 鈴木一有
高田健一 高橋克壽 椿真治 仁木聡 花谷浩 林健亮 林弘幸 曳野律夫 菱田哲郎 櫃本誠一
松本岩雄 森下章司 渡邊貞幸 大手前大学史学研究所 島根県教育委員会 松江市教育委員会

廻原1号墳発掘調査報告書

目 次

序 言

例 言

第1章 調査の目的と経過

1 調査の目的	岩本 崇	1
2 調査の経過	岩本 崇	2
3 謝 辞	大橋泰夫・岩本 崇	4

第2章 古墳をめぐる環境

1 古墳群の位置と地形	岩本 崇	5
2 周辺の遺跡	岩本 崇	5
3 調査と研究の歩み	岩本 崇	8
(1) 廻原1号墳の調査・研究	岩本 崇	8
(2) 廻原古墳群の構成	磯貝龍志	11
4 古墳の現状—測量調査—	岩本 崇	11

第3章 発掘調査

1 トレンチの配置	岩本 崇	15
2 墳丘形態の調査		16
① 第3トレンチ	柴田康磨	16
② 第4トレンチ	手島奈緒・佐藤 襟	16
③ 第7トレンチ	中井嶺花・鍵 碧・犬山雄太	18
3 墳丘構造の調査		22
① 第2トレンチ	立谷聡明	22
② 第5トレンチ	千賀祥子・若山俊介・福本亨充	24
③ 第6トレンチ	笠見幸帆・田中亜佑美・飯田周恵	25
4 埋葬施設の調査	岩本 崇	29
(1) 層序と墳丘		29
① 第1トレンチ	鈴木 圭	29
② 墳頂トレンチ	日浦裕子	32
(2) 埋葬施設の検出状況	奥山 貴	33
(3) 埋葬施設	岩本 崇	35
① 玄 室	岩本 崇・藤井雄一・磯貝龍志	35
② 羨 道	岩本 崇・磯貝龍志	43
③ 前 庭 部	鈴木 圭	45
(4) 埋葬施設の構造	岩本 崇	46

5	墳丘構造と墳丘形態の復元	岩本 崇	48
(1)	墳丘築造の諸段階と構造	岩本 崇	48
(2)	墳丘形態と墳丘規模の復元	岩本 崇	49
6	出土遺物		53
(1)	概 要	磯貝龍志	53
(2)	須 恵 器	犬山雄太・飯田周恵・田中 大・佐々木友紀	53
(3)	土 師 器	笠見幸帆・佐藤 襟・高橋里沙	57
(4)	土 製 品	笠見幸帆・佐藤 襟・高橋里沙	58
(5)	石材加工剥片	磯貝龍志	59
(6)	出土遺物の位置づけ	犬山雄太・飯田周恵・笠見幸帆・佐藤 襟	60
第4章 考 察			
1	出雲型石棺式石室の終焉	岩本 崇	67
2	終末期古墳の埋葬施設にみる石材加工技術	磯貝龍志	83
3	明治期の公文書にみられる廻原1号墳	加藤一郎	89
4	廻原1号墳の埋葬施設石材の全岩化学分析	亀井淳志・大橋泰夫・岩本 崇	95
5	廻原1号墳の三次元計測と活用	岡本篤志	100
第5章 総 括			
1	調査成果	岩本 崇	105
2	終末期古墳としての廻原1号墳の位置	岩本 崇	106
3	ま と め	岩本 崇	108

図 版
報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図	廻原 1 号墳の位置	1
第 2 図	調査の経過	3
第 3 図	廻原 1 号墳周辺の遺跡	7
第 4 図	廻原 1 号墳にかんする過去の調査記録 (1)	9
第 5 図	廻原 1 号墳にかんする過去の調査記録 (2)	10
第 6 図	廻原古墳群の構成	11
第 7 図	廻原 1 号墳墳丘および周辺地形測量図	12
第 8 図	トレンチ配置図	15
第 9 図	第 3 トレンチ平面図・壁面図	17
第 10 図	第 3 トレンチ遺物出土状況図	18
第 11 図	第 4 トレンチ平面図・断面図・壁面図	19
第 12 図	第 7 トレンチ平面図・断面図・壁面図	20・21
第 13 図	第 2 トレンチ平面図・壁面図	23
第 14 図	第 5 トレンチ平面図・壁面図	26
第 15 図	第 6 トレンチ平面図・壁面図	27
第 16 図	第 1 トレンチおよび墳頂トレンチ平面図・断面図・壁面図	30・31
第 17 図	第 1 トレンチ遺物出土状況図	32
第 18 図	埋葬施設平面図・立面図〔玄室・羨道・前庭部内面〕	37・38
第 19 図	埋葬施設平面図・立面図・拓影〔玄室・羨道・前庭部外面〕	39・40
第 20 図	埋葬施設見上げ図〔玄室・羨道内面〕	41
第 21 図	埋葬施設拓影〔玄室内面〕	42
第 22 図	玄門閉塞石	44
第 23 図	埋葬施設断ち割り部平面図・壁面図〔NE区拡張サブトレンチ・SE区第 2 サブトレンチ〕	47
第 24 図	墳丘築造の諸段階	49
第 25 図	廻原 1 号墳の墳丘復元案	51
第 26 図	須恵器 (1)	54
第 27 図	須恵器 (2)	56
第 28 図	土師器	57
第 29 図	土製品	58
第 30 図	石材加工剥片	59
第 31 図	廻原 1 号墳の埋葬施設	69
第 32 図	終末期古墳における横口の構造 (模式図)	71
第 33 図	剝抜式石棺系とされる横口式石槨	72
第 34 図	周辺地域の横口式石槨と関連資料	73
第 35 図	石棺式石室と石棺式模倣系石室の玄門上部構造	75
第 36 図	石棺式石室と石棺式模倣系石室	76
第 37 図	出雲若塚古墳玄室内の屍床 (南から)	77

第 38 図	終末期古墳の石材加工痕跡	84・85
第 39 図	終末期古墳の埋葬施設使用石材と加工技術	87
第 40 図	『埋蔵物処分合議写』に描かれた廻原 1 号墳出土品	89
第 41 図	埋葬施設の石材	95
第 42 図	玄室天井石の状況	95
第 43 図	アルカリーシリカ図	97
第 44 図	石材の微量元素組成	97
第 45 図	REGLE LMS-Z420i	100
第 46 図	Artec3d MH3D	100
第 47 図	廻原 1 号墳三次元計測放射輝度陰影図（右：俯瞰 左：鳥瞰）	101
第 48 図	廻原 1 号墳三次元計測放射輝度陰影図（断面表示）	102
第 49 図	廻原 1 号墳三次元計測地上・航空レーザ合成図	103
第 50 図	廻原 1 号墳の埋葬施設透視図〔模式図〕	105
第 51 図	特異な墳丘形態をもつ終末期古墳	107

表 目 次

第 1 表	廻原 1 号墳における墳丘各所の標高	51
第 2 表	遺物の種類と数	53
第 3 表	須恵器観察表	64・65
第 4 表	土師器観察表	66
第 5 表	土製品観察表	66
第 6 表	刳抜式石棺系とされる横口式石槨とその関連資料	71
第 7 表	妻入構造の石棺式石室と石棺式模倣系石室	75
第 8 表	廻原 1 号墳の石材の分析結果	96

図 版 目 次

図版 1	1 廻原 1 号墳遠景（南西から）	図版 5	1 第 4 トレンチ墳丘（北から）
	2 廻原 1 号墳全景（南から）		2 第 4 トレンチ拡張区墳丘（南東から）
図版 2			3 第 4 トレンチ A-A' 断面土層（南から）
	1 第 3 トレンチ墳丘（南から）	図版 6	第 7 トレンチ墳丘（南西から）
	2 第 3 トレンチ北壁土層（南東から）	図版 7	
図版 3			1 第 7 トレンチ A-A' 断面墳丘裾（南から）
	1 第 3 トレンチ遺物出土状況（南から）		2 第 7 トレンチ A-A' 断面墳丘盛土（南東から）
	2 第 3 トレンチ遺物出土状況近景（南から）		3 第 7 トレンチ南壁土層（西から）
図版 4	第 4 トレンチ拡張区墳丘（北東から）		4 第 7 トレンチ B-B' 断面土層（西から）

- 5 第7トレンチ北壁墳丘盛土（南から）
- 6 第2トレンチ東壁土層（南西から）
- 図版8 第5トレンチ墳丘（西から）
- 図版9
- 1 第5トレンチ墳丘上部北壁土層（南東から）
- 2 第5トレンチ墳丘裾付近北壁土層（南西から）
- 図版10 第6トレンチ墳丘（東から）
- 図版11
- 1 第6トレンチ墳丘上部北壁土層（南から）
- 2 第6トレンチ墳丘裾付近北壁土層（南東から）
- 図版12 前庭部遺物出土状況（南から）
- 図版13
- 1 前庭部遺物出土状況（南から）
- 2 羨道内玄門閉塞石出土状況（南から）
- 図版14 羨道天井石・玄室天井石（南から）
- 図版15 玄室天井石（北から）
- 図版16
- 1 玄室・羨道（南から）
- 2 玄室（南から）
- 図版17
- 1 玄室内部（南から）
- 2 玄門直下の羨道床面敷石（南から）
- 図版18
- 1 玄室天井石（南東から）
- 2 玄室天井石南小口面の割り込み（南から）
- 3 玄室天井石南端下面の割り込み（南西から）
- 図版19 羨道・前庭部（南から）
- 図版20
- 1 羨道西側壁（南東から）
- 2 羨道東側壁（南西から）
- 図版21
- 1 SW区サブトレンチ石材加工剥片出土状況（西から）
- 2 SE区第1サブトレンチ石材加工剥片出土状況（東から）
- 3 SW区サブトレンチ玄室設置面（西から）
- 4 SE区第1サブトレンチ玄室設置面（東から）
- 図版22
- 1 SW区サブトレンチ玄室下位の盛土・地山（西から）
- 2 SE区第1サブトレンチ玄室下位の盛土・地山（東から）
- 3 NE区拡張サブトレンチ玄室設置面（東から）
- 4 NE区拡張サブトレンチ玄室下位の盛土・地山（東から）
- 5 SE区第2サブトレンチ羨道壁体・盛土（東から）
- 図版23
- 1 玄室天井石外面中央部付近チョウナ敲打痕（下が南）
- 2 玄室棺身・天井石内面南東部チョウナ削り痕（西から）
- 3 玄室棺身南小口外面玄門下部チョウナ敲打痕（南から）
- 4 玄室棺身東側壁外面上部チョウナ敲打痕（東から）
- 5 玄室棺身東側壁外面下部チョウナ加工痕（東から）
- 6 玄室棺身西側壁外面下部チョウナ加工痕（西から）
- 図版24
- 1 玄室棺身北小口外面上部チョウナ削り痕（北東から）
- 2 玄室棺身北小口外面下部チョウナ加工痕（北東から）
- 3 玄室棺身北小口外面下部チョウナ敲打痕（北東から）
- 4 玄室棺身床面チョウナ敲打痕（北から）
- 5 玄室棺身右側壁内面チョウナ削り痕（西から）
- 6 玄室棺身内面北西隅チョウナ加工痕（南東から）
- 図版25
- 1 羨道天井石上面チョウナ加工痕（下が北東）
- 2 羨道天井石上面ノミ加工痕（下が南西）
- 3 羨道天井石下面ノミ加工痕（下が北）
- 4 羨道天井石北側面加工痕（北から）
- 5 羨道東側壁基底石チョウナ敲打痕（西から）
- 6 羨道西側壁基底石剥離加工痕（東から）
- 図版26 須恵器（1）
- 図版27
- 1 須恵器（2） 坏・高坏・壺瓶類破片
- 2 須恵器（3） 甕破片
- 図版28 土師器・土製品
- 図版29
- 1 石材加工剥片
- 2 玄門閉塞石
- 3 石材の断面（実大）
- 図版30
- 1 2010年測量調査（第1次）
- 2 雪の日の発掘調査（第2次）
- 3 2011年発掘調査（第2次）
- 4 2011年発掘調査（第2次補足）
- 5 2012年発掘調査（第3次）
- 6 2013年発掘調査（第4次）
- 7 2014年発掘調査（第5次）
- 8 2015年発掘調査（第5次補足）

報告書抄録

ふりがな	めぐりはらいちごうふんはつかつちょうさほうこくしょ							
書名	廻原1号墳発掘調査報告書							
副書名	出雲における古墳時代終末期首長墓の調査							
巻次								
シリーズ名	島根大学考古学研究室調査報告							
シリーズ番号	第15冊							
編集著者	岩本崇（編著）・磯貝龍志（編著）・大橋泰夫・奥山貴・鈴木圭・田中大・柴田康磨・立谷聡明・佐々木友紀・高橋里沙・日浦裕子・藤井雄一・千賀祥子・田中亜佑美・手島奈緒・中井嶺花・福本亨充・飯田周恵・犬山雄太・鍵碧・笠見幸帆・佐藤襟・若山俊介・加藤一郎・亀井淳志・岡本篤志							
編集機関	島根大学法文学部考古学研究室・廻原1号墳発掘調査団							
所在地	〒690-8504 島根県松江市西川津町1060							
発行年月日	西暦2016（平成28）年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
めぐりはらいちごうふん 廻原1号墳	しまねけん 島根県 まつえし 松江市 あさくみちよう 朝酌町 1066	32201	G005	35度 28分 17秒	133度 6分 9秒	2011年2月19日 ～ 2011年7月26日、 2012年9月3日 ～ 2012年9月28日、 2013年9月4日 ～ 2013年10月14日、 2014年9月6日 ～ 2014年9月30日、 2015年3月9日 ～ 2015年4月19日	71.5 m ²	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺物		特記事項		
廻原1号墳	古墳	古墳時代終末期		土師器・須恵器 ・石材加工剥片		出雲東部地域の終末期首長墓。地形に制約された隅切方墳の墳丘。出雲型石棺式石室の終末型式に位置づけられる埋葬施設をもつ。発掘調査により、墳丘と埋葬施設の構築過程を詳細に把握した。		

廻原 1 号墳発掘調査報告書
—出雲における古墳時代終末期首長墓の調査—
島根大学考古学研究室調査報告第 15 冊

発行年月日 2016 年 3 月 25 日
編集・発行 島根大学法文学部考古学研究室
廻原 1 号墳発掘調査団
〒 690-8504
島根県松江市西川津町 1060
印刷 有限会社 高浜印刷
〒 690-0133
島根県松江市東長江町 902-57
